

特集

瑩山けいざん禅師ぜんじものがたり ⑱



瑩山さまはいよいよ能登の諸岳もろがく観音堂に入り
大本山總持寺の開創に着手されました

今も残る出合いの場

定賢じょうけん律師が住職を務められていた諸岳観音堂のご本尊の観世音菩薩は、観音堂を創建された行基さまの作と伝えられています。その観世音菩薩様は今も能登の大本山總持寺祖院の慈雲閣に安置されており、毎年、七月十七日・十八日に開催される「観音祭り」には御開帳されています。

一三二一年の五月初め、瑩山さまと定賢律師は、観音堂の西にある峠道の途中で出会いました。そこは道下宿みちげを過ぎてすぐにある観音堂に抜ける羯鼓かちこ

林りんと呼ばれる小高い丘で、七百年以上経った今も、小さな祠がお二人の運命的な出合いをしのぶ史跡として残されています。

寺名の由来も夢から

定賢律師は瑩山さまに観音堂を寄進されます。「観音堂」から「總持寺」に大きく変わりますが、「總持寺」という寺名はどこから付けられたのでしょうか？

実は、瑩山さまが見られた夢にその秘密が隠されていたのです。

No. 73
2024 Winter

山さん松しょう舎がん
寺ざん南なん臨りん

夢の中で瑩山さまは、新任の住職として寺に入るため門に向かわれます。すると院主や寺僧が出迎えます。瑩山さまが門に入られたとき、どこからか、高らかに声が響きわたります。

「總持の一門、八の字に打ち開く」と。瑩山さまは、夢の中でひときわ大きく響きわたったその声が忘れられず、山号は諸岳観音堂にちなんで「諸嶽山しよがくざん」とされましたが、寺名は「總持寺」と命名されたのです。

和田山の山頂に坐禅石

總持寺に入られた瑩山さまは、ほどなく、寺からおよそ五百メートル北に位置する和田山の山頂に向かわれました。山頂には座り心地の良さそうな平らな石がいくつもあり、そこからは山はつかがわのふもとを流れる八ヶ川の向こうに、總持寺周辺の里山だけでなく、お寺全体を俯瞰することができました。

やがて参集してくる修行僧たちが坐

禅修行に打ち込める禅院にするためにはどんな施設が必要か、どんな配置にすればよいか、和田山の山頂からお寺の地形を眺めながら、お寺の伽藍配置の構想を練られたのです。

瑩山さまがお座りになられた石のそばには、瑩山さまの後を継ぎ總持寺の住職になられた峨山禅師が座られた石もあり、七百年後の今も「両尊坐禅石」として伝えられています。お二人でどんな会話を交わされたのでしょうか。

大本山總持寺の誕生により曹洞宗はいよいよ発展軌道に乗っていきます。そのきっかけとなったのが、一年後に後醍醐天皇から下された「出世道場」の論旨ですが、その話は次回といたします。



和田山の山頂に建つ「両尊坐禅石」の石碑

弁天に口紅供へ御開帳

山崎祐子

弁財天祈禱会で厄を払い、

新しい年の福を授かりましょう



弁財天様は七福神でただ一人の女性の神様です。音楽の才能をはぐくみ、智恵を授けるだけでなく、芸能や学問の分野で成功に導き、金運や財運をもたらすありがたい神様です。

かつて臨南寺の北側に広がっていた長居池の北之島には、弁財天様をおまつりした弁天堂があり、古くから地域の守り神として信仰されてきました。臨南寺の弁財天様は、その弁財天様をお移したものです。弁財天祈禱会では、『大般若波羅蜜多經』六百巻を転読いたします。この経典は、『西遊記』でおなじみの高僧・玄奘三蔵がインドから中国へもたらしたもので、大きな霊力を持つと言われています。



【大般若波羅蜜多經】を転読し、皆様の無病息災と家内安全をご祈念いたします

皆様の無病息災・家門隆盛・家内安全を願って、お札、お守り、破魔矢をお授けいたします。新しい年が穏やかでありますよう、また世界中に平和が訪れますよう、心を込めてお祈りいたします。

臨南寺 百景



『寿山福海』の掛軸

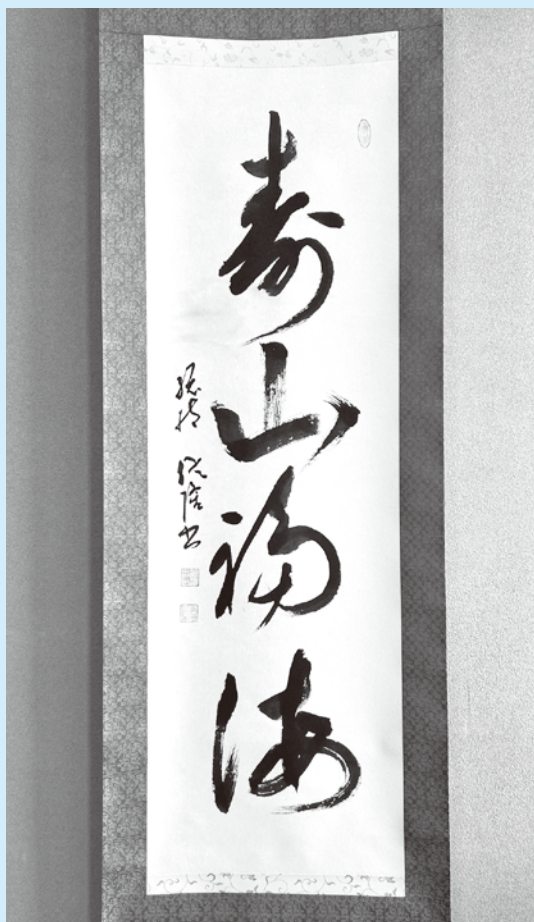
この掛軸は、曹洞宗管長・大本山總持寺貫首を務められた故・梅田信隆禅師の筆になるものです。

「寿山福海」とは、吉祥——めでたい兆しを表す言葉のひとつで、非常によく使われます。山を寿、海を福に例えています。山のよう

に高く悠々とした長寿と、海のように果てしなく広く深い幸せを表しています。福寿を祝い、そして願う大変おめでたい言葉です。

また、山や海といった大自然の恵みが、私たちに多くの幸運をもたらしてくれるという意味も含んでいます。幸せとは、どこか遠くにあるのではなく、現実世界の「今ここ」に、大自然の恵みとともに存在することに気づくことが大切です。

「自然を恐れ、自然を敬い、そして自然に従う」そんな人間の原点を見つめなおすことを私たちに迫っている言葉でもあるのです。



掛軸は休憩所でご覧いただけます

たくさんの「和顔愛語」に感謝

退職のご挨拶

樋口崇広



私事で大変恐縮ですが、令和六年十二月末をもって退職することになりました。臨南寺にご縁があり、令和元年から五年間勤めさせていただきました。お檀家様、参詣の皆様には感謝申し上げます。大阪へ来た当初は永平寺での修行が終わったもの、お檀家様の法事や檀務を行った経験がなく、不慣れで至らぬ点も多くご迷惑をおかけしてばかりでした。それでも、たくさんの方と日々を過ごす中で僧侶として見聞を広めることができました。皆様のご自宅へご先祖様の法事や毎月の命日にお参りする際やお墓参りに来られた方と、天気の話や身近な出来事、地域の歴史など何気ない会話をさせていただきました

皆様は「和顔愛語」という言葉を存じでしょうか。和やかな笑顔や穏やかな人相、思いやりや慈しみの言葉をもって人と接すること。僧侶にとって大切な精神です。愛に満ちた笑顔は、周りの人を和まして場の雰囲気は淀みなく明る

くさせてくれます。思いやりのある言葉は、温かい心を作り人との距離をぐっと身近にして安心させてくれます。反対に、険しい顔をして愚痴や棘のある言葉を使うと場の雰囲気は暗くなり、人との距離は離れてしまうように感じます。

私は皆様とする会話の中でたくさんの「和顔愛語」を頂戴して、僧侶としての大切な心を成長させていただきました。重ねてお礼申し上げます。退職後は実家のお寺である新潟県魚沼市守門の普門院にて副住職となります。まだまだ未熟ですが、大阪で得た知識を生かし、お寺の護持・宗門の発展に努力します。

臨南寺行持予定（一～二月）

一月

弁財天祈禱会（本堂）

一月十五日 午前十時～十時半

新年を迎えて最初の年頭法要です。新しい年がよい年になりますよう、皆様の厄を払い福を招く法要を修行いたします。（回向料二万円）



二月

釈尊涅槃会（本堂）

二月十五日

お釈迦様の御命日に、涅槃に入られるお釈迦様のお姿を描いた涅槃図を飾り、供養と感謝の法要を行います。

年末年始の臨南寺

* 十二月三十一日～一月三日は、寺務所を閉めさせていただきます。

* 三が日の花の販売はございません。

* 開門は午前五時、閉門は午後九時となっております。

早朝坐禅会

毎月第一土曜日 午前八時～ 本堂にて

* 一月と八月はありません。中止する場合がありますので、前日にお電話でお問合せください。

能登半島にお米を届けてきました

熊本県球磨郡球磨村・神照寺住職 岩崎哲秀老師

一月一日の地震の復旧がようやく進み始めた能登半島に、九月二十一日線状降水帯が発生、住居・山林・道路等に激甚災害が広がりました。特に仮設住宅が浸水した住民の皆さんは、避難所暮らしに逆戻りする深刻なケースに陥っておられます。私自身も四年前、熊本で地震と豪雨に被災した経験があります。被災地に到着すると、あまりの惨状に、住民の皆さんにお声掛けする言葉もありませんでした。

しかしながら、浸水被害の場合は迅速な復旧作業が急務です。臨南寺からお借りした高圧洗浄機で子ども園の復旧活動を行い、泥だらけだった玄関を元の状態に戻すことができました。今後も「できるときに、できることを」に努めていく所存で、一歩ずつ進めてまいります。

支援活動

- 炊出し・仮設住宅サロン活動
- 浸水した家財の撤去搬出
- 床下泥だし・土砂搬出(重機作業等)

支援物資

- お米・野菜・果物・サランラップ・ゴム手袋等
- 臨南寺の募金箱「活動支援金」



仏像を運び出す岩崎住職



能登豪雨の惨状に言葉を失う

お墓じまいのご相談は お早めに寺務所までどうぞ

「お墓を継いでくれる人がいない」「最近、お墓参りが大変になってきた」——今、さまざまな理由でお墓じまいを考えている方が増えています。

ご先祖さまからの思い出がたくさん詰まった、ご家族のための大切なお墓です。お墓じまいといっても、何から手をつけたらいいのかわからない人がほとんどだと思います。

そうかといって、何もせずに先伸ばししていると、時間だけが過ぎてしまいます。万一、当事者が亡くなされると、役所の手続きを含めてさらに複雑さが増して、余計な費用も掛かってしまいます。

臨南寺には、永代供養付きのがっしょう園マトリもごございます。お元気うちに、早めに寺務所にご相談ください。

墓苑にペットの同伴は 禁止されています

墓苑内にペットを連れてくるのは禁止されています。参拝される方は、ペットの好きな方ばかりではありません。不快な思いをされたり、参拝の邪魔になるケースもあります。ご協力をお願いします。



編集後記

歌手の小林幸子さんが言っていました。「面白いから笑うんではなくて、笑っていると面白くなってくるとよ」と。まさに笑門来福——笑いの絶えない家庭には自然と幸せが訪れるのですね。新しい一年も笑顔を絶やさず過ごしていきたいものです。(M)

年末年始の墓参のゴミは コンテナにお入れください

年末年始の墓参で出たゴミは、設置されたコンテナにお入れください。墓苑を美しく清潔に保つていただきますようご協力をお願いします。なおこのコンテナには、墓参でのゴミ以外は投棄しないでください。ご家庭のゴミはご遠慮ください。

「ほ〜っと」73号

令和6年12月

編集・発行：りょうがりん 椋伽林「ほ〜っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://rinnanji.com